

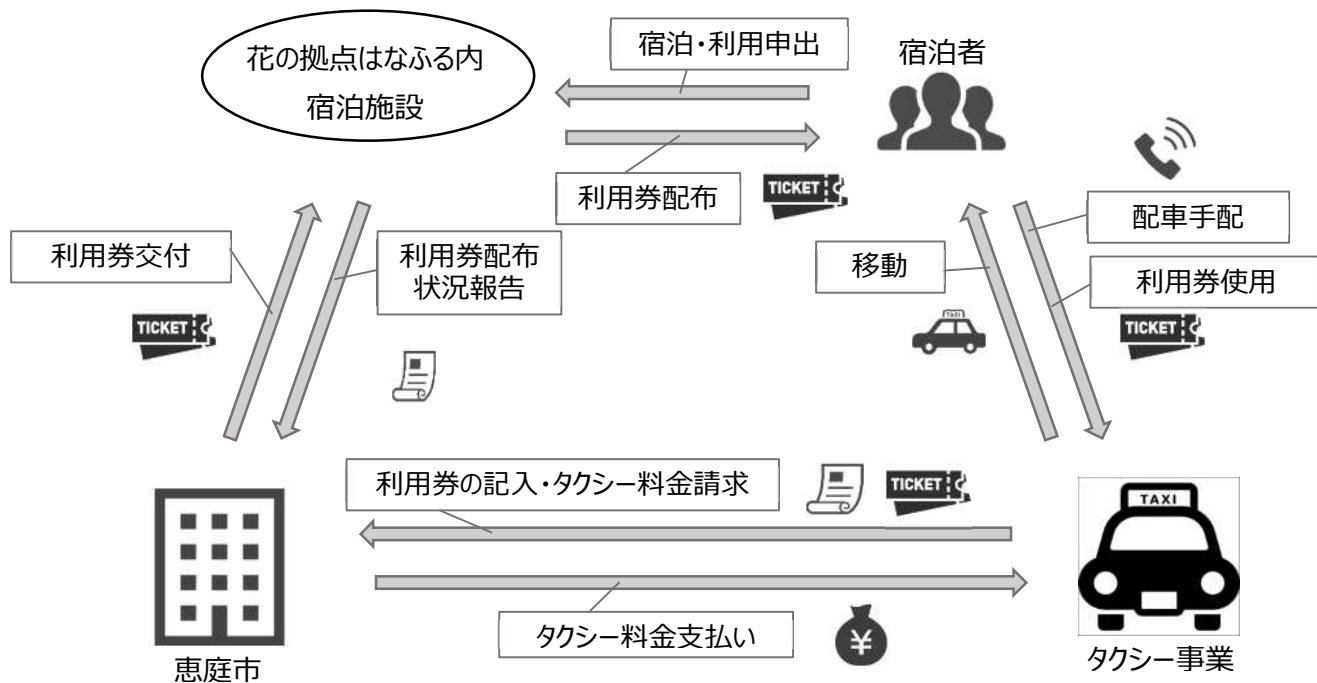
はなたびタクシー利用券事業の取組状況と今後の方向性について

1. 事業概要・目的

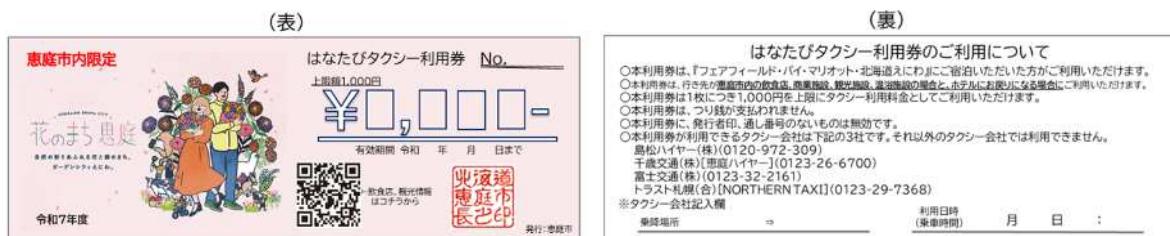
「はなたびタクシー利用券事業」は、花の拠点はなぶる内の宿泊施設の利用者が、市内の飲食店や温浴施設、観光施設などをご利用いただきやすくなるよう、タクシー移動を支援するもので 令和 5 年度（2023 年度）より実施している取り組みです。

レストランを設けない宿泊特化型ホテルであることから、市内限定の 1,000 円利用券を 1 滞在あたり 2 枚配布することで、市内の飲食店や商業施設などの利用を促し、市内周遊と市内消費の拡大を図っています。

< 図 1 : 事業イメージ >



< 図 2 : タクシーチケット (イメージ) >



2. 年度別利用実績

(1) 対象期間

令和 5 年度（2023 年度）：2023 年 4 月～2024 年 3 月（12 か月）

令和 6 年度（2024 年度）：2024 年 4 月～2025 年 3 月（12 か月）

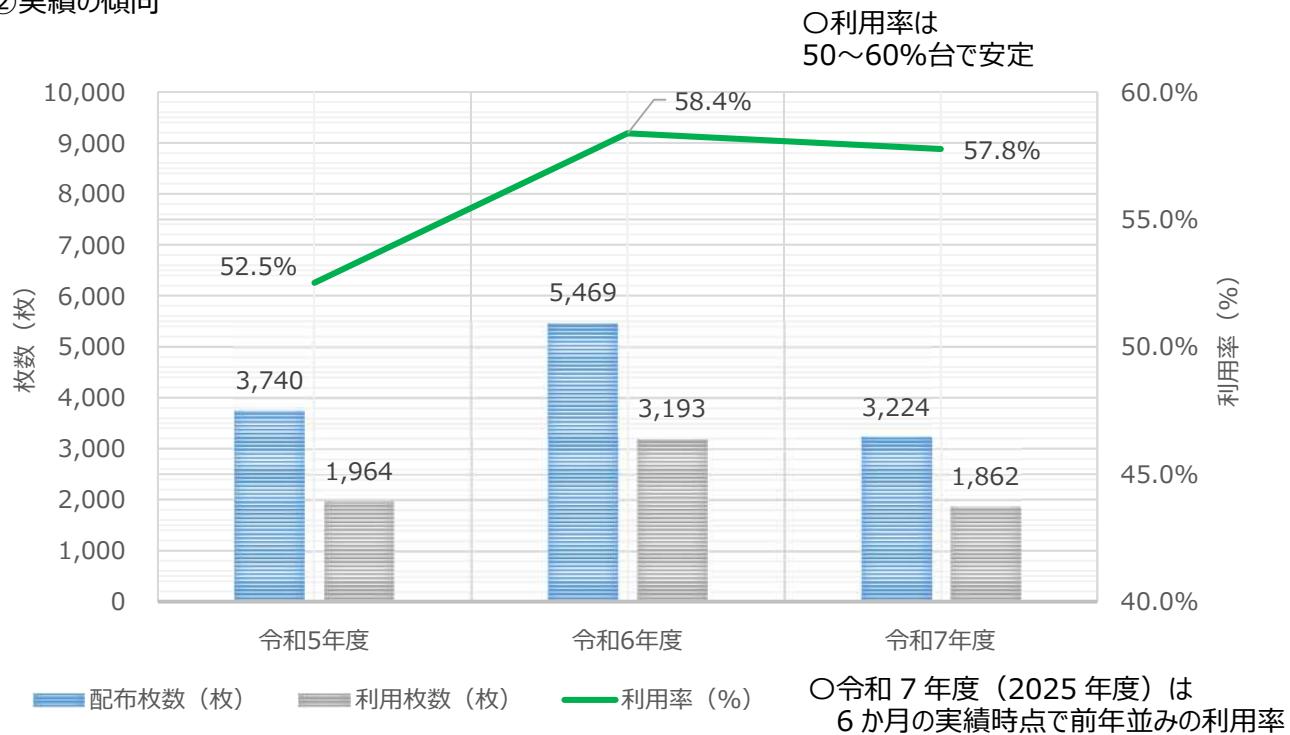
令和 7 年度（2025 年度）：2025 年 4 月～9 月（6 か月）

(2) 利用実績

① 利用実績

年度	配布枚数 (枚)	利用枚数 (枚)	利用率 (%)	利用金額 (円)
令和5年度（2023年度）	3,740	1,964	52.5%	1,721,340円
令和6年度（2024年度）	5,469	3,193	58.4%	2,708,350円
令和7年度（2025年度）	3,224	1,862	57.8%	1,566,920円

② 実績の傾向



3. 利用者属性・目的・乗降地の傾向

< 表1：利用者の居住地別内訳 >

(1) 居住地

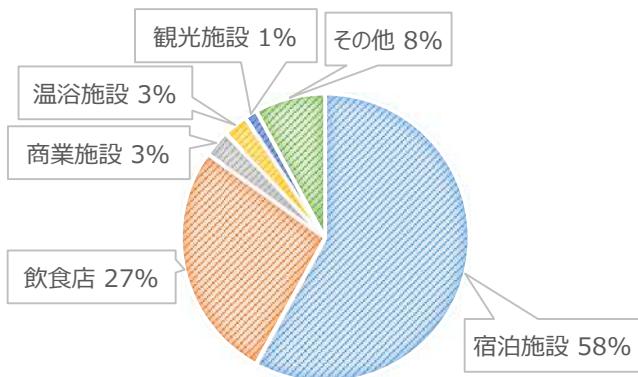
令和5~7年度（2023~2025年度）の3か年の通算データでは、東京、北海道、神奈川、大阪、アメリカの順に利用が多く、特に東京からの利用が全体の25%を超えており、東京の割合は年々増加傾向にある。



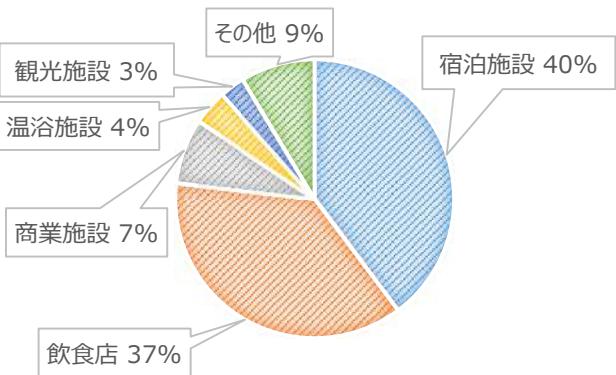
(2) 乗車・降車場所

- ・乗車地は宿泊施設（58%）が多く、次いで飲食店（27%）が多い
- ・降車地も宿泊施設（40%）が多く、次いで飲食店（37%）が多い
- ・宿泊施設を起点とした往復利用が基本であることから、乗車・降車ともに宿泊施設が最も多い
- ・宿泊施設を除いた実績は、飲食店、商業施設、温浴施設が多い

< 表2：乗車地別内訳 >



< 表3：降車地別内訳 >



- ・タクシー料金帯は「1,001～2,000 円」が約 2/3 で、短距離の市内移動が中心となっています。

4. 今後の方向性

(1) これまでの成果と課題

これまでの 3 年間（令和 5～7 年度／2023～2025 年度）における取組では、市内消費の促進や宿泊者の市内回遊の創出など、一定の効果が確認されました。

特に、宿泊施設から飲食店・温浴施設等への移動需要が高く、市内経済への波及も見られました。

一方で、

- ・観光需要の回復等に伴うタクシー不足
- ・配布対象施設の限定に対する公平性の課題
- ・観光客の移動ニーズの多様化・高度化

など、事業の継続にあたって見直しを要する点も明らかになってきています。

これらの状況を踏まえると、現行の仕組みを今後も同様に継続することについては、慎重な検討が必要と考えられます。

(2) 令和 8 年度（2026 年度）以降の方向性

令和 8 年度（2026 年度）以降は、現在策定作業を進めている「第 3 期恵庭市観光振興計画（令和 8 ～17 年度／2026～2035 年度）」に基づき、観光客の利便性や市内回遊性の向上に資する新たな交通サービスのあり方を検討していく予定です。

具体的には、

- ・観光 MaaS・シェアモビリティとの連携
- ・市内回遊動線を踏まえた交通サービスの再設計

といった、より広い視点での施策展開を検討してまいります。

※MaaS：公共交通機関やその他の移動サービスをまとめて検索・予約・決済などができるようにし、移動の利便性を高めるサービス

※シェアモビリティ：車や自転車、電動キックボードなどを複数の利用者で共有して利用できるサービス

また、これらの検討過程においては、令和 7 年度末をもって現行の「はなたびタクシー利用券事業」を終了することも選択肢のひとつとして視野に入れつつ、次期観光振興計画に基づく新たな取り組みへと円滑に移行できるよう、総合的に検討を進めていきます。